

輸液ポンプ添付文書（現行） 各製品の記載内容の比較

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
1	【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉 本品には指定の輸液セット以外は使用しないこと。[指定外の輸液セットを使用した場合、流量精度や警報機能が保証できないだけでなく、患者に重篤な健康被害を与える可能性がある。指定の輸液セットは取扱説明書を参照。]	【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉 本品には指定の輸液セット又は輸血セット（以下、輸液セットと記載）以外は使用しないこと。指定の輸液セットは取扱説明書を参照すること。[指定外の輸液セットを使用した場合、流量精度や警報機能、その他本品が正しく機能しない可能性がある。]	【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉 本機には指定の輸液セット以外は使用しないこと。[指定外の輸液セットを使用した場合、流量精度や警報機能が保証できないだけでなく、医療事故につながるおそれがある。指定の輸液セットは取扱説明書を参照すること。]	【禁忌・禁止】〈併用医療用具〉 本製品には指定の輸液セット以外は使用しないこと。[指定外の輸液セットを使用した場合、流量精度や警報機能が保証できないだけでなく、医療事故につながる危険性があります。指定の輸液セットは取扱説明書を参照のこと。]
2	【警告】〈使用方法〉 チューブクランプ、チューブガイド、電動クランプ（オプション）に正しくチューブが装着されていることを確認すること。[正しく装着されていない場合、薬液の過大注入、過小注入、未投与など正常な注入が行われない可能性がある。]	【警告】〈使用方法〉 チューブセット時は、チューブに折れ、つぶれ、たるみがないこと、及び上下のチューブ溝、フィンガー部、チューブガイド、各種検出部、チューブクランプ部にチューブがまっすぐセットされていることを確認すること。[正しくセットされていない場合、薬液の過大注入、過小注入や未投与等、正常な輸液が行われない可能性がある。]	【警告】〈使用方法〉 チューブ装着時に、フィンガー部・チューブガイド・各種検出部に正しくチューブが装着されていることを確認すること。[正しく装着されていない場合、薬液の過大注入や未投与など正常な送液が行われないおそれがある。]	【警告】〈使用方法〉 - チューブセット時に、カムブレード部・チューブガイド・各種検出部に正しくチューブがセットされていることを確認すること。[正しくセットされていない場合、薬液の過大注入や未投与など正常な送液が行われないおそれがあります。] 【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 - 輸液セットのチューブは、ポンプのガイドに従いたるみなく又、引っ張りすぎないように装着すること。[たるんでいる又は引っ張りすぎていると注入量の誤差要因となります。] - 輸液セットのチューブは、チューブクランプ部に正しく装着すること。
3	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 輸液セットの上下を逆に装着しないこと。[血管内の血液が吸引される。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 輸液セットの上下を逆に装着しないこと。[血管内の血液が吸引される。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 輸液セットの上下を逆に装着しないこと。[血管内の血液が吸引されるおそれがある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液セットの上下を逆に装着しないこと。[血管内の血液が吸引されます。]
4	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 輸液セット装着時に極端に強く引っ張らないこと。[チューブが変形し、流量誤差が大きくなる可能性がある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 チューブセット時に極端に強く引っ張らないこと。[チューブが変形し、流量誤差や各種警報機能等の本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]		

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
5		【警告】〈使用方法〉 ■ポンプの下流側にクレンメを配置して使用すること。[本品は上流側の閉塞検知機能は持っていないため、上流でのクレンメの開け忘れなどがあった場合、薬液の未投与状態が検出されない。]	【警告】〈使用方法〉 ■ポンプの下流にクレンメを配置して使用すること。[本機は上流側の閉塞感知機能は持っていない為、上流でのクレンメの開け忘れ等があった場合、薬液の未投与状態が検出されない。]	【警告】〈使用方法〉 ■ポンプの下流側にローラーランプを配置して使用すること。[本装置は上流側の閉塞検知機能は持っていないため、上流でのローラーランプの開け忘れ等があった場合薬液の未投与状態が検出されません。]
6	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■チューブがまっすぐにセットされていない状態や、左右のドアフックが正常にフック受けに掛かっていない状態等ではドアが閉まりにくいことがある。この場合は無理に閉めず、チューブやドアフックおよびフック受けの状態を確認すること。[無理に閉めると、装置及びチューブの破損により流量誤差が大きくなる可能性がある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■A I S（アンチイレギュラーセット）機構によりチューブがまっすぐセットされないと、ドアが閉まりにくいことがある。この場合は無理に閉めず、チューブのセット具合を確認すること。[無理に閉めると、装置及びチューブの破損、液漏れ発生の可能性がある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■チューブがまっすぐセットされないと、ドアが閉まりにくいことがある。この場合は無理に閉めず、チューブのセット具合を確認すること。	
7	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ドアを閉める際、ドアと本体の隙間に指等の体の一部を入れないように注意すること。[傷害を負う可能性がある。]			
8	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■輸液セットを装着し、ドアを閉じ、クレンメを開いた後に、薬液の滴下が認められる場合は、輸液セット、チューブの装着状態、装置に異常、破損がないか確認すること。	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■輸液セットを装着しドアを閉じクレンメを開いた後に、薬剤の滴下が認められる場合は輸液セット（指定の輸液セットか）、チューブの装着状態（正しく装着されているか）、輸液セット及び装置の異常（破損していないか）を確認すること。		

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
9	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 - 輸液セットの使用時間は次の条件を守ること。 - 表：省略（輸液セットの材質、点滴数モード、JC モード（回転数制御）） - JC モード（回転数制御） ※輸液セットの材質は、使用する輸液セットの添付文書または製造販売元に確認すること。	【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 - 本品は、チューブの変形を最小限に抑え、安定した注入が行えるが、24 時間以上の使用においては、規定の流量範囲を外れることや、閉塞警報が発生することがある。安定した輸液を維持するために、次の処置を行うこと。 - ポンプ用輸液セット H i シリーズ（±7%）：24 時間ごとに新しい輸液セットと交換 - ポンプ用輸液セット（±10%）：24 時間ごとにポンプ装着部のチューブを 15 cm 以上ずらすか、新しい輸液セットと交換 [同一箇所にて長時間連続して装着すると、チューブが変形して流量誤差や、閉塞警報の原因となる。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 輸液開始後 24 時間を経過したら、新しい輸液セットと交換するか、もしくは輸液セットのチューブ位置を 15cm 以上ずらし新しいチューブの部分を取り付けすること。	【使用上の注意】〈その他の注意〉 輸液セットは 24 時間を目安に交換するか、装着位置を 15 cm 以上移動して使用すること。[長時間同じ状態で使用しますと、変形して流量異常が発生する可能性があります。]
10	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 輸液セットを袋から取り出したら、チューブに曲がり癖のついていない部分を選んで装着すること。[チューブを挟んだり、流量誤差が大きくなる可能性がある。]			
11			【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 一度使用した輸液セットは再使用しないこと。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液セットは再使用しないこと。[再使用すると感染するおそれがあります。]
12			【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液回路との接続を確実にする為、ルアーロックタイプの輸液セットを推奨する。	

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
13	【警告】〈使用方法〉 - 輸液開始時には、輸液状態（点滴の落下状態、輸液の減り具合）や穿刺部位を確認すること。また輸液中にも定期的に巡回時等で同様に確認すること。[本品は、1.輸液の精度を直接測定する原理で動作していない。2.輸液ラインの外れ、フィルタの破損等による液漏れを検出することはできない。3.静脈針が静脈より外れて血管外注入になった場合の警報機能はない。] 【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 - 輸液開始時には、滴落検知器の滴落インジケータが、薬液の滴落に合わせて点滅することを確認すること。	【警告】〈使用方法〉 輸液開始時には、輸液状態（点滴の落下状態、薬液の減り具合）や穿刺部位を必ず確認すること。また、輸液中にも定期的に巡回時等で同様な確認を行うこと。[本品は1.輸液の精度を直接測定する原理で動作していない。2.患者の状態を監視する機能を有していないため、本品が適正に動作していた状態で患者の状況が変化しても検知できない。3.輸液ラインの外れ、フィルタの破損等による液漏れを検出することはできない。4.上流側の閉塞検知機能を持っていないため、上流側でのフィルタ目詰まり等が発生した場合に検出できない。5.静脈針が静脈より外れて血管外注入になった場合の警報機能は有していない。6.点滴プローブは仕様に記載された流量精度を保証するまでの性能を有していない。7.点滴プローブを使用しても、検出できないフリーフローや流量異常がある。8.フリーフローを検知した場合でもフリーフローを止める機能は有していない。9.他の輸液システムと並行して使用する場合、仕様どおり動作しないことがある。]	【警告】〈使用方法〉 輸液開始時には、輸液状態（点滴の落下状態、輸液の減り具合）や穿刺部位を確認すること。また輸液中にも定期的に巡回時等で同様な確認を行うこと。[本機は、1.輸液の精度を直接測定する原理で動作していない。2.輸液ラインの外れ、フィルタの破損等による液漏れを検出することはできない。3.静脈針が静脈より外れて血管外注入になった場合の警報機能は有していない。]	【警告】〈使用方法〉 - 輸液開始時には、輸液状態（点滴の落下状態、輸液の減り具合）や穿刺部位を確認すること。また輸液中にも定期的に巡回時等で同様な確認を行うこと。[本製品は、1.輸液の精度を直接測定する原理で動作しておりません。2.輸液ラインの外れ、フィルタの破損等による液漏れを検出することはできません。3.静脈針が静脈より外れて血管外注入になった場合の警報機能は有しておりません。4.落滴センサーを使用しても、フリーフローや流量異常を検知出来ない場合があります。5.他の輸液システムと並行して使用した場合、仕様通りに動作しないことがあります。6.患者の状態を監視する機能を有していないため、本製品が適正に動作していた状態で患者の状況が変化しても検知できません。] 【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 - 輸液中はポンプに依存せず輸液瓶、輸液パックの薬液残量の確認を行い常に監視を行うこと。
14	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 警報の音量を小さくすると、警報の発生に気がつかない可能性があるため、十分に監視すること。			
15	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 設定途中に警報が発生した時は必ず設定値を確認すること。[警報が発生すると設定途中の値が確定される。]		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 使用中に警報が鳴った場合は、取扱説明書の「警報が鳴ったときの処置」の説明に従って対応すること。	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 警報が発生した場合には、警報の原因を明らかにし、適切な処置を行うこと。

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
16		【警告】〈使用方法〉 ■ 以下の設定の切換を行った後は、正しく切換ができていることを再確認すること。[警報機能が意図したとおりに動作しない可能性がある。] ・ 気泡検出感度切換 ・ 閉塞検出圧切換		【警告】〈使用方法〉 ■ 以下の設定の変更を行った時は、正しく変更が出来ていることを再確認すること。 ・ 気泡検出感度設定 ・ 閉塞検出圧設定
17		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 静脈針を穿刺する前に、必ず輸液ライン内のエア抜きを行うこと。[エア抜きを行わない場合、患者に障害を与えるとともに、正常な輸液が行えない可能性がある。]		
18			【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 血管が確保されたことを確認してから輸液を開始すること。	
19		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ ドアを開け、輸液セットを装着しない状態で電源を入れ、ランプの点滅とブザーの鳴動及びフィンガーが動くことを確認すること。		
20	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本品の「開始/停止」ボタンを押す前に、輸液の設定（輸液セット、流量、予定量）が正確であることを確認すること。[設定を間違えると、過大注入または未投与の可能性がある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 輸液を開始する前には、設定値の桁を間違えたり、流量と予定量を逆にしていないかなど、設定の確認を行うこと。[本品は、設定された値が妥当であるかを判断する機能は有しておらず、患者に過大注入又は過小注入となる可能性がある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本機の開始キーを押す前に、輸液の設定（流量、予定量）が正確になされていることを確認すること。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本製品の動作開始ボタンを押す前に、輸液の設定（注入量、予定量、予定時間）が正確になされていることを確認すること。
21	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 本品から輸液セットを取り外すときは、輸液セットのクレンメを閉じてからドアを開けてチューブクランプを開くこと。[フリーフローによる過大注入の可能性ある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ ポンプから輸液セットを取り外す際は、必ず輸液セットをクレンメ等で閉じてからドアを開け、チューブクランプを解除して行うこと。[フリーフローによる過大注入となる。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ ポンプから輸液セットを取り外す際は、輸液セットのクレンメを閉じてからチューブを外すこと。[フリーフローによる過大注入のおそれがある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ ポンプから輸液セットを取り外す際は、輸液セットのローラーランプを閉じてからチューブを外すこと。[フリーフローによる過大注入の危険があります。]

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
22	【警告】〈使用方法〉 ■フリーフロー発生時には、輸液セットのクレンメを閉じること。[患者に重篤な健康被害を与える可能性がある。]			
23	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■本品と重力式輸液とを並行して使用しないこと。[本品は、1.重力式輸液を並行して行った場合、接合部分より下流の閉塞が検出できない。2.重力式輸液ラインが空になったことが原因でポンプ下流の接合部分で気泡を巻き込んだ場合などは、正常な輸液が行われず、警報も作動しない。]	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■重力式輸液と並行して使用しないこと。[本品は、1.重力式輸液ラインとの接合部分より下流で閉塞が発生した場合、閉塞警報が動作しない。2.重力式輸液ラインが先に空になったことが原因でポンプ下流の輸液ライン接合部分で気泡を巻き込んだ場合などは、正常な輸液が行えず、警報も動作しない。]	【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉 ■本機と重力式輸液とを並行して使用しないこと。[輸液ポンプと重力式輸液を並行して行った場合、ポンプ下流の輸液ライン接合部分で気泡が発生したり、接合部分より下流の閉塞が検出できないなど、正常な輸液が行われなかったり、警報が作動しない場合がある。]	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■本製品と重力式輸液とを並行して使用しないこと。[輸液ポンプと重力式輸液を並行して行った場合、ポンプ下流の輸液ライン接合部分で気泡が発生したり、接合部分より下流の閉塞が検出できないなど、正常な輸液が行われなかったり、警報が作動しない場合があります。]
24	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■本品を極端な陰圧や陽圧が発生する可能性のある回路には使用しないこと。[流量精度や警報機能を保証できない。]	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■本品を極端な陰圧や陽圧が発生する可能性のある体外循環回路等には使用しないこと。[流量精度や閉塞警報が保証できない。]	【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉 ■本機を極端な陰圧や陽圧が発生する可能性のある回路等には使用しないこと。[流量精度や警報機能が保証できない。]	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■本製品を極端な陰圧や陽圧が発生する又は発生の可能性のある対外循環回路等に使用しないこと。
25			【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■本機と他の輸液システムとを並行して使用しないこと。[本機の輸液ラインに他の輸液システムまたは付属部品を接続し、並行輸液を行った場合は本機の仕様通りに作動しないことがある。]	【使用上の注意】〈相互作用 併用注意〉 ■本製品と他の輸液システムとを並行して使用しないこと。[本製品の輸液ラインに他の輸液システムまたは付属部品を繋ぎ込み、並行輸液を行った場合は本製品の仕様通りに動作しないことがあります。]
26	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■JC モード（回転数制御）で輸液する場合、界面活性剤を含む表面張力の低い薬液等、点滴筒内の1滴の大きさが生理食塩液と比べて小さくなる薬液を使用する時は、必要に応じて滴下監視範囲を変えること。[正常な輸液状態でも点滴警報が作動することがある。]		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■本機で、界面活性剤の混合されている薬液等、表面張力・比重・粘度が生理食塩水と異なる薬液を使用した場合、仕様どおりの精度で輸液できない場合がある。	
27	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■点滴数モード（滴下数制御）で輸液する場合、薬液の種類により滴の体積が変わるので、必要に応じ流量設定値を変えること。[流量誤差が大きくなる可能性がある。]			

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
28	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 小児や高齢者などや低流量で使用する場合は、輸液ラインの折れ等に特に注意すること。[設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなるため、長時間輸液が中断する可能性がある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 微量注入で使用する場合は、低温環境で使用する場合は、閉塞の発生がないことなど、輸液状態に特に注意すること。[次の理由により、長時間、輸液が中断する可能性がある。1.設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなる。2.低温になると、輸液セットのチューブが硬くなって、閉塞を検出する圧力が高まり、閉塞発生から検出するまでの時間が長くなる。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 微量注入で使用する場合は、輸液ラインの折れ等に特に注意すること。[設定流量が微量になるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなる為、長時間輸液が中断する場合がある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 小児や老人などや低流量でご使用になる場合は、輸液ラインの折れ等に特に注意すること。[設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなるため、長時間輸液が中断する場合があります。]
29	【警告】〈使用方法〉 - 輸液ラインのチューブの折れ、クレンメの開け忘れ、フィルタのつまり、静脈針（翼状針）のつまり等による閉塞状態が発生した場合は、輸液ラインのできるだけ下流をクランプする等の処置を行い、輸液ラインの内圧を解放した後に閉塞の原因を取り除いて輸液を開始すること。取扱説明書の閉塞解除手順を参照。[輸液ラインの内圧が高いので、この状態のまま閉塞の障害を取り除くと患者に"ボーラス注入（薬液の一時的な過大注入）"される可能性がある。] 【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 - チューブ内圧が高い場合は、輸液ラインの内圧を解放した後に輸液を開始すること。取扱説明書の閉塞解除手順を参照。	【警告】〈使用方法〉 輸液ラインのチューブの折れ、クレンメ等の開け忘れ、フィルタのつまり及び注射針内の血栓等により閉塞状態が発生した場合には、輸液ラインのできるだけ下流をクランプしてから、輸液ラインの内圧を開放し、その後、閉塞の原因を取り除いて開始すること。[1.ポンプから、下流の閉塞発生箇所までの輸液ラインの内圧が高くなっている状態である。このまま閉塞の障害を取り除くと患者にボーラス注入（薬液の一時的な過大注入）されてしまう。2.閉塞の原因を取り除かないで開始した場合、閉塞警報が正常に動作せず、輸液ラインの内圧が高まり、輸液セットの接合部等の外れ、破損やボーラス注入（薬液の一時的な過大注入）等が生じる可能性がある。]	【警告】〈使用方法〉 輸液ラインのチューブの折れ、フィルタの詰まり及び注射針内の血栓等により閉塞状態が発生した場合には、輸液ラインの出来るだけ下流で輸液ラインをクランプし、輸液ラインの内圧を解放した後、閉塞原因を取り除くこと。[1.輸液ラインの内圧が高くなっています。この状態のまま閉塞の障害を取り除くと患者に"ボーラス注入（薬液の一時的な過大注入）"されてしまいます。2.閉塞の原因を取り除かず開始した場合には、閉塞警報が正常に動作せず、輸液ラインの内圧が高まり、輸液セットの接合部などの外れ、破損やボーラス注入（薬液の一時的な過大注入）などが生じる可能性があります。]	【警告】〈使用方法〉 輸液ラインのチューブの折れ、フィルタの詰まり及び注射針内の血栓等により閉塞状態が発生した場合には、輸液ラインの出来るだけ下流で輸液ラインをクランプし、輸液ラインの内圧を解放した後、閉塞原因を取り除くこと。[1.輸液ラインの内圧が高くなっています。この状態のまま閉塞の障害を取り除くと患者に"ボーラス注入（薬液の一時的な過大注入）"されてしまいます。2.閉塞の原因を取り除かず開始した場合には、閉塞警報が正常に動作せず、輸液ラインの内圧が高まり、輸液セットの接合部などの外れ、破損やボーラス注入（薬液の一時的な過大注入）などが生じる可能性があります。]
30	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 薬液は室温に充分なじませてから使用すること。[本品は、1.冷えたまま使用すると、溶存空気が気泡となり、装置の気泡警報が出やすくなる。2.輸液セットのチューブが硬くなって、閉塞発生から検出するまでの時間が長くなる。3.輸液セットのチューブが硬くなって、過大注入、過小注入など、正常な注入が行われない可能性がある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 薬液は室温になじませてから使用すること。[冷えたまま使用すると溶存空気の気化により気泡が発生し、気泡混入警報が多発する原因となる。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 薬液は室温に十分なじませてから使用すること。[冷えたまま使用すると、溶存空気の気化により気泡が発生し、気泡警報が出やすくなることもある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 保冷薬液以外の薬液は室温に十分なじませてから使用すること。[溶存空気の気化により気泡が発生し、装置の気泡警報が出やすくなります。]

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
31		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないこと。[装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化が生じ、本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]		
32		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 輸液ポンプと患者との落差を極端に大きくしないこと。[輸液セット内が陰圧となり、チューブのつぶれを検出して閉塞警報が発生する。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本機は、患者の心臓の高さに対して上下 130cm 以内の範囲で使用する。	
33				【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 輸液チューブ内の気泡に注意すること。[特にポンプより下部の気泡は、気泡センサー検知外となるので注意すること。]
34	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 早送り中は、気泡・滴下異常は検知しないため、早送りをしている間は、気泡や滴下の異常に注意すること。			
35		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本品で使用されるケーブル（通信、ナースコール）や A C 電源コード等は、鉗子等で挟んだり、針等で刺したり、また、床等に這わせた場合にはキャスター等で踏んだりしないこと。[ケーブルやコード等が破損した場合、感電や火災の可能性がある。また、本品が有する機能や性能が得られない。]		
36		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本品の表示部や操作部（スイッチ等）を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでついたり操作したりしないこと。[表示部や操作部の破損や故障の原因となる可能性がある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 操作キー類は、必ず指で操作すること。鋭利なペン先などで操作すると、操作パネル面を破損するおそれがある。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 操作スイッチ類は、必ず指で操作すること。[鋭利なペン先等で操作すると、操作部が破損する場合があります。]

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
37	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液剤等の滴下により AC 電源インレットに薬液がかかってショートすることがあるので、設置場所に注意し、電源コードを接続するときには接続部分が濡れていないことを確認すること。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液剤等の滴下によって電源コネクタ（AC、DC）に薬液がかかってショートすることがあるので、コネクタを接続する際には接続部分がぬれていないことを確認すること。また、薬液等のぬれを確認した場合、AC 電源コードを本体及び AC 100V コンセントから抜いた状態、かつ電源を切った状態で速やかに乾いた布等でよく拭き取ること。[本品は防水構造ではなく、内部の電子部品に影響を与え、装置故障の原因となる。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液剤等の滴下によって、電源差込口、外部電源端子に薬液がかかってショートする事があるので、設置場所に注意し、更にコネクタを接続する際には接続部分が濡れていないことを確認すること。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 防滴構造になっていませんので薬液の降りがかりには十分注意すること。
38		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 本品の使用中に移動する場合は、スイッチ等に触れないこと。[本品の意図しない動作（停止、開始、急速注入、電源の入、切）が生じる可能性がある。]		
39				【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 カムブレード部、気泡センサー部、閉塞センサー部には強い力や衝撃を加えないよう注意すること。
40				【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ポンプ本体裏面部の放熱スリットを塞がないこと。
41	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 強い静電気が加わらないように注意すること。[故障や誤動作の可能性ある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 強い静電気が加わらないように注意すること。[故障や誤作動の可能性ある。]		
42	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 本品の使用目的及び操作方法以外の目的や方法で使用しないこと。			
43				【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸血用のポンプではないので、輸血には使用しないこと。
44	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 併用する医薬品及び医療機器の添付文書を確認後、使用すること。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 併用する医薬品及び医療機器の添付文書を確認後、使用すること。		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 併用する医薬品及び医療器具（輸液セット）の添付文書を確認して使用すること。
45		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 輸液スタンドを使用する際は、輸液スタンドの説明書に従うこと。		

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
46	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 習熟した者以外は機器を使用しないこと。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 習熟した者以外は機器を使用しないこと。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 熟練した人以外は機器を使用しないこと。	
47	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 滴落検知器を装着した点滴筒は垂直に保持すること。[大きく傾くと滴の体積が変わり、過大注入または未投与になる可能性がある。] ■ 点滴筒の内面に薬液が付着したときは、点滴筒をゆすり付着した薬液を落とすこと。[滴が正しく検出されず、過大注入または未投与になる可能性がある。] ■ 滴落検知器に直射日光や強い光を当てないこと。[滴落検知器が誤検知し、警報の作動や流量異常の原因になる。] ■ 滴落検知器による流量異常の検知（点滴警報）は、流量精度の逸脱を知らせるものではない。また、点滴筒内の滴下が連続流の場合は、流量異常が検出できないことがある。 【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ プライミング中およびプライミング後は点滴筒を傾ける等、点滴筒内の点滴口部を薬液に浸漬しないこと。[薬液により点滴口部表面が親水化され、滴の体積が大きくなり、点滴警報の発生および過大注入の可能性がある。]	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 点滴プローブは滴下が検出できるよう、下記のことには注意すること。[正常に滴下が検出できないため、流量異常警報が発生し、ポンプ動作が停止する可能性がある。なお、正しくセットした場合でも、流量異常やフリーフローが検出できない可能性がある。] ■ 点滴筒の点滴口部に汚れがないことを確認し、また、点滴口部を薬液に浸漬させたりしないこと。 ■ 点滴プローブは、点滴筒の点滴口部と液面の中間になるように、また、点滴筒が垂直になるように装着すること。 ■ 点滴筒内の液量は1／3にして、点滴筒内に曇りや水滴がないこと。 ■ 点滴筒内の液面がゆれるような振動等をあたえないこと。 ■ 日光や強い光があたらないように設置すること。	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ ドロップセンサーは、滴粒を検出しており、流量を測定する機能は有していない。また、点滴筒内の滴下が連続流の場合は、流量異常が検出できない。	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 落滴センサーは、点滴筒に正しく装着すること。又、直射日光や強い光が当たらないように設置すること。[落滴センサーに直射日光や強い光が当たると、落滴の検出ができず流量異常やフリーフローを警報できない場合があります。] 【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 落滴センサーは、輸液ポンプの仕様に記載された注入精度を確保するものではありません。又、点滴筒内の滴下が連続流の場合は、流量異常を検出できないことがあります。
48		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 点滴プローブを接続するときは、本体背面の輸液セットスイッチの滴数設定が合っていることを確認すること。[フリーフローや流量異常が正しく検出されない。]		
49		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 点滴プローブ使用時は、粘性の低いあるいは高い薬剤（ブドウ糖注射液、血液、血液製剤等）を使用した場合、正常な輸液状態でも流量異常警報が発生し、ポンプの動作を停止させることがある。		

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
50		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 点滴プローブは正しく装着した場合でも、振動等によって点滴筒内の液面がゆれることにより流量異常警報を発生し、ポンプの動作が停止する可能性がある。		
51		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 点滴プローブをコネクタへ抜き差しする際は、必ず電源を切った状態で行うこと。[輸液中の抜き差しは流量異常警報を発生させ、ポンプが停止する。]		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 落滴センサーのコネクタの抜き差しは、必ず電源を切った状態で行うこと。
52		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 輸液中の流量異常やフリーフローの検出のため、本品には専用の点滴プローブ（コード番号：TE-971）を使用することを推奨する。ただし、点滴筒内の滴下が連続流の場合、流量異常は検出できない。		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液中には必ず落滴センサーを接続して使用すること。
53		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 点滴プローブは専用の点滴プローブ（コード番号：TE-971）以外は使用しないこと。[滴下検出や警報機能が保証できない。]		
54	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 IV ポール等への固定は確実に行うこと。また、IV ポールの安定性を確認すること。[固定が不確実な場合、移動中の振動などにより、ねじが緩み、本品が落下する可能性がある。]	【警告】〈使用方法〉 - 輸液スタンド等への固定は確実に行うこと。また、スタンドの安定性を確認すること。[落下、転倒の可能性がある。] 【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 - 本品は、安定性を考慮して設置すること。[落下や輸液スタンドの転倒等により、本品が破損する可能性がある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液スタンド等への固定は確実に行うこと。また、スタンドの安定性を確認すること。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 輸液スタンド等への固定は確実に行うこと。また、スタンドの安定性を確認すること。
55		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 輸液スタンドに輸液ポンプを固定したまま移動する際は輸液ポンプの取手を持ったり、上から力を加えないこと。[ポールクランプがずれたり、破損して輸液ポンプが輸液スタンドから落下、破損したり、けがの可能性のある。]		

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
56		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 付属の A C 電源コードを使用すること。アース付の A C 1 0 0 V コンセント等に接続して必ず接地を行うこと。また、付属の A C 電源コードは、他の機器に使用しないこと。[指定外の A C 電源コードを使用した場合、本品が故障する可能性がある。また、接地を行わずに使用した場合、本品の電気的安全性が保証できない。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ A C 電源を使うときは必ず付属の A C 電源コードを使用し、アース線を確実につなぐこと。 ■ 確実な接地が取れない場合は、内蔵バッテリーで使用する。	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 接地を必ず取ること。 【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 確実な接地がとれない場合は、内蔵電池でのみで使用する。
57		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 交流電源と直流電源を同時に接続しないこと。[故障の原因となる。]		
58		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 通常の使用は交流電源（A C 1 0 0 V）、直流電源（ただし専用電源）を使用すること。なお、内蔵バッテリーは移動時、停電時等、交流電源が適正に使用できないときの補助電源である。		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 電源は A C 電源を基本とし、内蔵電源での使用は移動時又は A C 電源が適正に使用できない時のみとすること。
59	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 必ず、内蔵バッテリーを充電してから使用すること。[購入後最初に使用するときや長期保管後に使用するときは、内蔵バッテリーが放電している可能性がある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 購入後初めて使用する場合や、しばらく使用しなかった場合は、交流電源（A C 1 0 0 V）に接続し、電源切の状態十分に充電（約 8 時間以上）を行うこと。[充電が不十分な場合、停電発生時等に内蔵バッテリーでの動作ができなくなることがある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 購入後はじめて使用する場合や、しばらく使用しなかった場合は、A C 電源に接続し、電源 O F F で十分に充電（24 時間以上）を行うこと。[充電が不十分な場合、停電発生時等に内蔵バッテリーでの動作が出来なくなるおそれがある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 購入後はじめて使用する場合や、しばらく使用しなかった場合は、A C 電源に接続し、電源 O F F で十分に充電（5 時間以上）を行うこと。充電が不十分な場合、停電発生時等に内蔵電池での動作ができなくなることがあります。
60			【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 内蔵バッテリーで運転をする場合は、前もって意図する時間運転できることを確認してから、再度充電して使用すること。	
61	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 内蔵バッテリーの劣化状態チェックと、バッテリー残量表示の表示精度を維持するため、3 ヶ月に 1 度はバッテリーのリフレッシュをすること。リフレッシュの方法は取扱説明書を参照。また、約 2 年（標準交換期間）を目安に定期的に交換を行うこと。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本品への供給電力が十分であることを確認してから使用すること。[供給電力が不十分な場合、内蔵バッテリーで動作するため、緊急時に使用できなくなる可能性がある。また、本品を接続して供給電力を超えた場合には、他の機器にも影響を与える可能性がある。]	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 内蔵バッテリーが経時劣化すると、動作時間が短くなる。内蔵バッテリーの劣化状態チェック（詳細は、取扱説明書「保守管理」定期点検、内蔵バッテリー点検を参照）を、半年に 1 回は行うこと。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 内蔵電池が経時劣化すると、電池での動作時間が短くなります。内蔵電池の劣化状態チェックのためにも、1 ヶ月に 1 回は充電を行うこと。

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
62		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 内蔵バッテリーが経時劣化すると、バッテリーランプの示す動作時間が短くなる。内蔵バッテリーの劣化状態チェックと、バッテリーランプの表示精度を維持するため、1 カ月に 1 回は充放電を行うこと。また、約 2 年を目安に定期的に交換を行うこと。		
63	【警告】〈使用方法〉 ■ 本品の周辺での携帯電話、無線機器、電気メス、除細動器等高周波を発生する機器を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用する。またこれらの機器とは別系統の電源を使用すること。[ポンプに誤動作が生じる可能性がある。]	【警告】〈使用方法〉 ■ 本品の周辺で電磁波を発生する機器（携帯電話、無線機器、電気メス、除細動器等）を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用する。また、これらの機器とは別系統の電源を使用し、確実に接地を行って使用すること。[本品に誤作動が生じた場合、患者に重篤な状態を与える可能性がある。]	【警告】〈使用方法〉 ■ 本機の周辺で携帯電話、無線電話、電気メス、除細動器等高周波を発生する機器を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用する。またこれらの機器とは別系統の電源を使用し、確実に接地を行って使用すること。[ポンプに誤作動が生じるおそれがある。]	【警告】〈使用方法〉 ■ 本製品の周辺で携帯電話、無線機器、電気メス、除細動器等高周波を発生する機器を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用する。またこれらの機器とは別系統の電源を使用し、確実に接地を行って使用すること。[ポンプに誤作動が生じた場合、患者に重篤な状態を与える可能性があります。]
64		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 ■ 外部通信機能を使用中は電気メス、携帯電話、無線機器、除細動器等の影響を受けやすくなるため、十分注意すること。また、本品が正常に動作していることを定期的に確認すること。	【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 ■ 外部通信機能を使用中は電気メス、携帯電話、無線機能、除細動器等の影響を受けやすくなることが考えられる為、充分注意すること。また、本機が正常に動作していることを定期的に確認すること。	
65	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■ 放射線機器・MRI の管理区域内および高圧酸素療法室内では、使用しないこと。また、高圧酸素療法室内へ輸液ラインだけを入れての使用も行わないこと。[本品はこれらの環境での使用を想定した設計をされていない。これらの環境で使用すると、本品の誤動作や破損、爆発を誘引する可能性がある。]	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■ 放射線機器、MRI の管理区域内及び高圧酸素療法室内へは持ち込まない、又は使用しないこと。また、高圧酸素療法室内へ輸液ラインだけを入れての使用もしないこと。当該環境に本品を誤って持ち込んだ場合は、直ちに使用を中止し、以降、使用しないこと。[本品はこれらの環境での使用を想定していない。これらの環境に持ち込むことにより、本品の誤作動や破損及び経時的な劣化、又は爆発の誘因となる可能性がある。]	【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉 ■ 放射線機器・MRI の管理区域内及び高圧酸素療法室内では、使用しないこと。また、高圧酸素療法室内へ輸液ラインだけを入れての使用も行わないこと。[本機はこれらの環境での使用を想定した設計をしていない。これらの環境で使用すると、本機の誤動作や破損、爆発の誘因を引き起こすおそれがある。]	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 ■ 放射線機器・MRI の管理区域内及び高圧酸素療法室内では、使用しないこと。また、高圧酸素療法室内へ輸液ラインだけを入れての使用も行わないこと。[本製品はこれらの環境での使用を想定した設計をされていません。これらの環境で使用することにより、装置の誤動作や破損、爆発の誘因を引き起こす可能性があります。]

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
66	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 電気メスまたは携帯電話と本品を併用すると、誤動作する可能性があるため、次のことを確認すること。電気メスのコード（メスホルダ、メスコード、および対極板コード）と本品の距離を 25cm 以上離すこと。携帯電話は本品から 1m 以上離すこと。	【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 電気メスの周辺で使用する場合：医用電気メスは高いエネルギーの高周波電流により、生体の切開や凝固を行う手術用機器である。電気メスの周辺で本品を併用する場合には、下記の事項について使用前に確認すること。（１）電気メスは、その種類により高周波雑音の発生度合いが異なり、特に古いもの（真空管ギャップ式）から発生する雑音は大きくなるので併用は避ける。（２）電気メスのコード（メスホルダ、メスコード及び対極板コード）及び電気メス本体と、本品の距離を 25cm 以上離す。（３）電気メスと本品の電源は、別系統の電源からとり、確実に接地を行う。	【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 電気メスの周辺で使用する場合：医療用電気メスは高いエネルギーの高周波電流により、生体の切開や凝固を行う手術用機器である。電気メスの周辺で本機を使用すると、高周波雑音により誤作動するおそれがある。電気メスを併用する場合は、下記の事項について使用前に確認すること。（１）電気メスは、その種類により高周波雑音の発生度合いが異なり、特に古いもの（真空管ギャップ式）から発生する雑音は大きくなるので併用はさけること。（２）電気メスのコード（メスホルダ、メスコード及び対極板コード）および電気メス本体と、本機の距離を 25cm 以上離すこと。（３）電気メスと本機の電源は、別系統のコンセントからとり、確実に接地を行うこと。	【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 電気メスの周辺又は併用で本製品を使用すると、電気メスの高周波雑音により誤動作する可能性があります。電気メスの周辺で使用する場合には、下記の事項について使用前に確認すること。（１）電気メスは、その種類により高周波雑音の発生度合いが異なり、特に古いもの（真空管ギャップ式）から発生する雑音は大きくなりますので併用はさけること。（２）電気メスと本製品の電源は、別系統のコンセントからとり、確実に接地を行うこと。
67		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 本品を他の医療機器、医療用モニタと接続する際には、システムとしての安全を確保するため、IEC60601-1-1：2000 に適合していることを確認して使用すること。		
68		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 品を医療用モニタ等と接続する際には、モニタ等のメーカーと仕様の確認を行うなど、安全に注意すること。また、接続ケーブルは EMI 対策品を使用すること。		
69		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 ナースコールと接続する際には、ナースコール機能を維持するため、電気工事取扱店に相談すること。		
70		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 外部通信／ナースコールコネクタを使わない場合は、カバーを取り付けること。（コード番号：TE-161SC、TE-161SAC のみ）		
71		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 ナースコールの代わりにブザー又はランプ等を接続する場合は、DC 12V、1A 以下の容量で使用する。		

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
72		<u>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</u> ■本品は気密構造ではないので、活性ガス（消毒用ガスも含む）環境やネブライザー等の噴霧を行っている環境や多湿環境等での使用、保管はしないこと。[装置内部の電子部品に影響を与え、損傷や経時劣化により、本品が故障する原因となる。]		<u>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</u> ■活性ガス（消毒用ガスを含む）環境や多湿環境等では使用・放置しないこと。[本製品は気密構造ではないので、装置内部の電子回路に影響を与え劣化や損傷により故障する可能性があります。]
73	<u>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</u> ■引火性のある環境で使用しないこと。[火災または爆発を誘引する可能性がある。]	<u>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</u> ■引火性のある環境で使用、保管はしないこと。[引火又は爆発の誘因となる可能性がある。]	<u>【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉</u> ■引火性のある環境で使用しないこと。[引火又は爆発を誘因するおそれがある。]	<u>【警告】〈使用方法〉</u> ■引火性のある環境で使用しないこと。[引火又は爆発を誘因するおそれがあります。] <u>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</u> ■可燃性麻酔剤などが存在する引火性のある環境では使用しないこと。
74	<u>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</u> ■本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所、エアコン、暖房器具、換気口、加湿器などからの風が直接当たる場所、液体がかかる場所、傾斜した場所で使用しないこと。液体がかかった場合は、柔らかい布等ですぐに拭き取ること。	<u>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</u> ■本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所や液体がかかる場所で使用しないこと。本品に液体（薬液や血液等）がかかった場合は、乾いた柔らかい布等で水気をよく拭き取ること。[本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。]		
75				<u>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管に関する注意〉</u> ■使用条件：周囲温度 10～40℃ ■相対湿度 30～75%RH
76			<u>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</u> ■直射日光の当たる場所および異常な温度、湿度となる場所では使用しないこと。	
77	<u>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管条件〉</u> ■周囲温度：－10～40℃、相対湿度：20～95%（ただし、結露なきこと）	<u>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈貯蔵・保管方法〉</u> ■保管条件：周囲温度・20～45℃ 相対湿度 10～95%RH（ただし、結露なきこと）		<u>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管に関する注意〉</u> ■直射日光や紫外線照射下に長時間放置しないこと。保管条件：周囲温度 0～40℃ 相対湿度 30～75%RH（但し、結露なきこと）

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
78	【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管方法〉 ■ 水のかからない場所に保管すること。 ■ 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分等を含んだ空気等により悪影響の生じる可能性のない場所に保管すること。 ■ 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。 ■ 直射日光の当たらない場所およびエアコン、暖房器具、換気口、加湿器からの風が直接当たらない場所に保管すること。 ■ 傾斜、振動、衝撃等のない安定な状態で保管すること。 ■ バッテリーは過放電を防ぐため、満充電にして保管すること。長期間使用しないときは、バッテリープラグをはずして保管し、6 ヶ月に 1 度は、満充電にすること。	【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈貯蔵・保管方法〉 ■ 水ぬれに注意し、日光及び高温多湿を避けて保管すること。 ■ ・振動、塵埃、噴霧下、腐食性ガス等の多い場所に保管しないこと。 ■ 日光や紫外線照射下に長時間放置しないこと。〔外装が変色、変形、変質することがある。〕 ■ 気圧、温度、湿度、風通し、塩分、イオウ分を含んだ空気等により悪影響の生じる可能性のある場所に保管しないこと。 ■ 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。	【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈貯蔵・保管方法〉 ■ コード類の取り外しに際してはコードを持って引くなどの無理な力をかけないこと。 ■ 付属品、コードは清浄したのち、整理してまとめておくこと。 ■ 本機は次の使用に支障のないように必ず清浄にしておくこと。 ■ 水ぬれに注意して、直射日光及び高温多湿をさけて保管すること。 ■ ほこり、塩分、イオウ分などを含んだ空気などにより悪影響を生じるおそれのない場所に保管すること。 ■ 本機を保管する時は、次の使用に備えてバッテリーを満充電しておくこと。	【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管に関する注意〉 ■ 直射日光や紫外線照射下に長時間放置しないこと。 ■ 水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。 ■ 振動、塵埃、腐食性ガス等の多い場所に保管しないこと。
79	【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈耐用期間〉 ■ 指定の保守・点検ならびに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間：6 年〔自己認証（当社データ）による〕	【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈有効期間・使用の期限〉 ■ ・指定の保守、点検並びに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間：6 年（自己認証による）	【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈有効期間〉 ■ 指定の保守点検並びに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間：6 年〔自己認証（当社データ）による〕	【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈耐用期間〉 ■ 指定の保守・点検並びに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間：6 年〔自己認証（当社データ）による〕
80		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本品の使用前、及びしばらく使用せず再び使用するときには、必ず使用前点検を実施すること。異常が認められた場合には、本品は使用せず、点検、修理を依頼すること。〔本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。〕	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 使用の前には、必ず始業点検を実施すること。異常が認められた場合、ただちに使用を中止し、弊社担当者まで連絡すること。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 使用の前には、必ず使用前点検を実施すること。異常が認められた場合、ただちに使用を中止し、販売元又は納入業者に連絡すること。
81	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本品の分解・改造をしないこと。〔本品の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす可能性がある。〕	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本品の分解、改造、修理（表示部や可動部へのテープ留め等、機能や性能を阻害する行為含む）をしないこと。〔本品の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす可能性がある。〕	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 本機の分解・改造はしないこと。〔本機の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす場合がある。〕	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ 装置の分解・改造をしないこと。〔装置の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす場合があります。〕 【使用上の注意】〈その他の注意〉 ■ 自分で分解や修理をすることはさらに大きな故障の原因となるので行わないこと。

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
82	【警告】〈使用方法〉 床への落下や、IV ポールの転倒などによる衝撃が加わった場合は、直ちに使用を中止すること。[本体外観に異常が認められない場合でも、内部が破損し過大注入等になる可能性があるため、点検確認が必要。]	【禁忌・禁止】〈使用方法〉 本品は精密機器のため、床への落下、輸液スタンドの転倒、強くぶつけるなどによる衝撃が加えられた場合はそのまま使用しないこと。[本品外観に異常が認められない場合でも、内部が破損し、流量精度や各種警報機能等の本品が有する機能や性能が得られない可能性があるため、点検確認が必要である。]	【警告】〈使用方法〉 床への落下や、点滴スタンドの転倒などによる衝撃が加わった場合は直ちに使用を中止すること。[本体外観に異常が認められない場合でも、内部が破損しているおそれがある為、点検確認を行う必要がある。]	【警告】〈使用方法〉 - 床への落下や、点滴スタンドの転倒などによる衝撃が加わった場合は直ちに使用を中止すること。[本体外観に異常が認められない場合でも、内部が破損している可能性があるため、点検確認が必要です。] 【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 - 落下、衝撃が加わった場合は、本体の外観及び動作に異常が認められない場合でも、ただちに使用を中止して点検を行なうこと。
83		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 本品を殺菌消毒液（ポビドンヨード等）を送液する目的では使用しないこと。[殺菌消毒液の成分が付着することにより、本品の部品の劣化や破損につながる可能性がある。]		
84	【警告】〈使用方法〉 日常点検および年に 1 度の定期点検を必ず実施すること。[患者に重篤な健康被害を与える可能性がある。日常点検および定期点検は【保守・点検に係る事項】を参照し、詳細については取扱説明書を参照すること。]	【保守・点検に係る事項】 - 安全に使用するために、定期的に保守点検を実施し、各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止すること。 - バッテリーは放電状態で保管しないこと。[放電状態のまま保管するとバッテリーが劣化し、緊急時に使用できなくなる可能性がある。]		【保守・点検に係る事項】 - 安全に使用するために、定期的に保守点検を実施し、各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止すること。 - N i - c d 電池は、放電状態で保管しないこと。[放電状態のまま保管すると N i - c d 電池が劣化し、緊急時に使用できなくなる可能性がある。]
85		【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉 薬液が固着していると、輸液や警報検出が正しく行われないことがある。薬液が付着した場合は、速やかに綿棒等で汚れをよく拭き取るなどの清掃を行うこと。		【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 - 薬液が固着していると、送液や警報検出が正しくおこなわれないことがあります。薬液が付着した場合は、すみやかに綿棒等で汚れを拭き取る等の清掃を行うこと。 【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉 - 薬液が固着していると、輸液や警報検出が正しく行われないことがある。薬液が付着した場合は、速やかに綿棒等で汚れをよく拭き取るなどの清掃を行うこと。

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
86	【保守・点検に係る事項】〈保守・点検に関する注意〉 ■清掃のとき、気泡センサ面、滴落センサ面に傷をつけないようにすること。 ■アルコール、シンナーなどの有機溶剤では拭かないこと。 ■酸化水素水を含有した消毒剤・除菌洗浄剤等で拭かないこと。 ■滴落検知器のプラグを濡らさないこと。	【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉 ■使用前、使用後に本品の清掃を行うこと。消毒を行う際は、オートクレーブや滅菌器等は使用せず、消毒液を浸したガーゼ等をよくしぼってから本体を軽く拭き、その後、水又はぬるま湯を浸してよくしぼったガーゼ等で、消毒液を拭き取り、更に乾いた柔らかい布等で水気をよく拭き取ること。なお、希釈率はその製品の添付文書の記載に従うこと。使用可能な消毒液例は以下のとおりである。クロルヘキシジングルコン酸塩／ベンザルコニウム塩化物 ■清掃するときは、必ず本品の電源を切り、AC電源コード、DCケーブルを抜いてから行うこと。[本品の故障や感電等を起こす可能性がある。] ■清掃の際は、チューブ装着面に傷がつかないようにすること。 ■アルコールやシンナー等の有機溶剤やポビドンヨードでは拭かないこと。[有機溶剤を使用したり、使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損や故障の原因となる。] ■ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。[本品が破損する可能性がある。] ■本体を、流水や水没させての洗浄は行わないこと。[本品は防水構造ではないため、破損、故障する可能性がある。]	【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 洗浄 ■本機は、常に清潔にするように心がけ、薬液の付着や、汚れは、柔らかい布をぬるま湯で湿らせて拭くこと。 【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 滅菌 ■本機を、スチームオートクレーブにかけたり、薬液に浸さないこと。 ■本機の滅菌は、58℃以下、相対湿度 60%以下の条件で EOG 滅菌し、室内で 24 時間か、エアーレータで 8 時間換気を行うこと。この方法は、あくまでも目安なので適切な方法で滅菌の有効性を確認すること。	【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 ■ポンプの洗浄に注意すること。特に電源接続部（インレット）、電源スイッチ及びヒューズ部は注意すること。 ■清掃の際は、チューブ装着面に傷がつかないように注意すること。センサー部に傷が付くと誤動作の原因となります。 ■高圧蒸気滅菌にかけたり、薬液に浸さないこと。 ■センサー部はぬるま湯に浸したガーゼ等にて、定期的に清掃を行うこと。 【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉 ■使用前、使用後に本品の清掃を行うこと。消毒を行う際は、滅菌器等は使用せず、消毒液を浸したガーゼ等をよくしぼってから本体を軽く拭き、その後、水又はぬるま湯を浸してよくしぼったガーゼ等で、消毒液を拭き取り、更に乾いた柔らかい布等で水気をよく拭き取ること。なお、消毒液の希釈率はその製品の注意書きの指示に従うこと。使用可能な消毒液例は以下のとおりである。・消毒用アルコール ・塩化ベンザルコニウム（50～200 倍液） ■清掃するときは、必ず本製品の電源を切り、AC電源コードを抜いてから行うこと。[本製品の故障や、感電等を起こす可能性がある。] ■シンナー等の有機溶剤やポビドンヨードでは拭かないこと。[有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本製品の破損や故障の原因となる。] ■本製品を、流水や水没させての洗浄は行わないこと。[本製品は防水構造ではないため、破損、故障する可能性がある。]

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
87	【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 - 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容） - 詳しくは取扱説明書の「日常点検」を参照。	【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）	【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 - 以下の定期点検は半年に1度行うこと。 本機の外観のチェック:装置外観上の割れ、大きな傷がないかを確認すること。操作パネルに破れ、傷がないかを確認すること。 - 輸液流量のチェック ・メスシリンダーとストップウォッチを使用し輸液流量のチェックをすること。 - 警報機能のチェック - ドアオープン警報…輸液中にドアを開き、表示と警報音を確認すること。 - 閉塞警報…ローラークレンメを閉じ、輸液を行い、表示と警報音を確認すること。 （検出圧設定により、高圧が発生する場合があるので、十分注意して操作すること） - 気泡警報…Ar-0 設定にて、チューブ内の長さで空気を 10mm～20mm 混入し、輸液を行い、表示と警報音を確認すること。 - バッテリーのチェック: バッテリーは消耗品です。劣化した場合は交換が必要です。（取扱説明書「定期点検」の項を参照のこと。）	【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 - 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容） - 保守点検に係わる詳細については、本体添付の「ニプロ自動輸液ポンプ F P - 1 2 0 0 s 保守点検マニュアル」を参照のこと。
88	【保守・点検に係る事項 企業による保守・点検】 - 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容） - 詳しくは当社担当者に問い合わせること。	【保守・点検に係る事項】〈企業による保守・点検〉 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）	【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）	【保守・点検に係る事項】〈企業による保守・点検〉 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
89	【保守・点検に係る事項】〈保守・点検に関する注意〉 交換部品は、指定部品を使用すること。	【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉 交換部品は指定部品以外使用しないこと。 [本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]	【保守・点検に係る事項〈使用者による保守・点検〉 - 耐用寿命を越える場合は、必ず部品交換を含む総合的な点検修理を行うこと。(バッテリーを除く) - 定期交換部品 ・定期交換部品とは使用中に徐々に劣化が進み、機器の精度・能力を維持するために定期的な交換が必要な部品のことです。本機では下記の部品が定期交換部品となっている。 - 表：省略（品名、耐用寿命、交換の目安） - 保守部品のメーカー保有期間は、自主基準により、当該医療機器を医療機関に引渡した時から6年です。 - 本機を廃棄又は、リサイクルする場合は、バッテリーを外してから行うこと。 - 使用済みのバッテリーは弊社代理店まで返却するか、又は法規・規制に従い適切な方法で処分すること。	【使用上の注意】〈その他の注意〉 - 内蔵電池の交換は、取扱説明書の電池交換方法及び交換上の注意を見て行うこと。 【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉 - 交換部品は指定部品以外を使用しないこと。[本製品が有する機能や性能が得られない可能性がある。] - 本機器の「保守部品のメーカー保有期間」は、製造中止通知後耐用期間内の6年とします。
90		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 本品で輸液を行う際は、積算量に早送り量を考慮に入れること。[本品は、早送り量を積算量に加算する仕様であるため、考慮に入れない場合は実輸液量との差異が発生する。]		
91		【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意 テルフュージョンポンプ用輸液セット（PVCフリー）及びシュアプラグ輸液セット（ポンプ用・PVCフリー）を次の条件で使用した場合、開始時に薬液が数秒から数十秒流れず、流量異常警報が発生することがある。（点滴ブローブ使用時） ・30℃以上の環境で使用した場合 ・チューブをセットし、ドアを閉めた状態で数分以上放置した場合		
92				【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉 速効性の薬液や粘度の極端に高い薬液には使用しないこと。

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
93				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 早送りした量は、積算値に加算されません。
94				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 「早送り」スイッチは、連続 1 分以上受け付けません。強制的に停止となります。
95				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 輸液開始よりの「積算量」、「積算時間」を確認したい場合は「表示切替」スイッチにより表示を切り替えて確認すること。
96				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 注入中は注入量、予定量、注入終了予定時間の変更はできません。一旦、輸液を停止してから行うこと。
97				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 積算量のリセットは、ポンプを停止状態とし、表示を積算量の表示とし「積算量リセット」スイッチを 2 秒以上押すこと。同時に「積算時間」もクリアされます。
98				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 注入量設定値が 1 0 0 m L / h 以下の場合、警報表示「閉塞」が点滅することがあります。これはカムブレードの波形注入方式による注入圧の増減にセンサーが反応しているためです。規定の閉塞検知圧まで圧力があがれば、警報となります。
99				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■ 警報表示「電池」には、予告警報があります。電池での動作が出来なくなる約 3 0 分前に予告警報となります。

No.	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D
100				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■微量の気泡混入の場合、「気泡」の警報表示が点滅することがあります。気泡の量が増加し規定の値に達すと警報になります。
101				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■「気泡」の警報表示は、扉が開いていると輸液セットの装着有無に関係なく点滅します。気泡センサーが扉部にあるためです。
102				【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■「輸液完了」警報時は、注入速度がいかなる速度設定においても 1 mL/h にスローダウンします。
103	【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■電動クランプ（オプション）を装備している場合は、電動クランプが開いていることを確認後、輸液セットを装着すること。電動クランプが閉じているときは、一度電源を OFF し、再度 ON すること。			
104		【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉 ■予定量を「----」（予定量設定なし）で輸液を行った場合、輸液剤が無くなり気泡混入警報が発生するまでポンプは停止しないため、薬剤が無くなる前に停止すること。安全のため、輸液剤容量よりも若干少なめの予定量を設定して使用することを推奨する。		